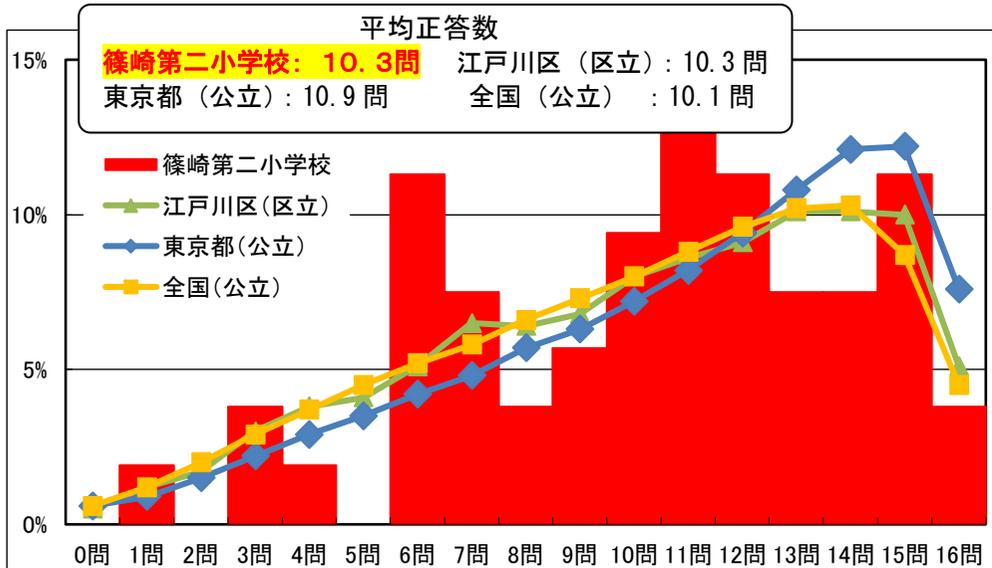


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 篠崎第二小学校

## 正答数分布



## <四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
篠崎第二小学校	22.6	18.8	32.1	26.4
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

## 【平均正答率の差】

篠崎第二小学校	65%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	-3ポイント

## 【分析結果と授業改善に向けて】

### 〔分析結果〕

- 全体の平均正答率が東京都の平均を3ポイント程度下回っている。
- 東京都を基準としたA層の割合が、東京都より9%程度少ない。
- 変化と関係に関する設問の正答率が、東京都より5ポイント程度下回っている。

### 〔授業改善に向けて〕

- 習熟度別少人数指導において、自力解決が困難な児童に対しては、実際の量をイメージした上で数的処理ができるよう、具体物の観察や操作の場面を多く設定する。
- 対話的な学習を通して、児童と教師のやり取りや、児童同士の意見の交流を積極的に行い、「自分たちで課題を解決した」や「分かりやすく伝えることができた」と、達成感を味わわせ、算数を学習する意欲を継続させる。
- 児童一人ひとりが不得意とする単元を明確にし、東京ベーシックドリル活用期間に、その単元の問題の復習に集中して取り組ませる。
- 江戸川区算数科スタンダードに基づく授業を行う。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けたときのそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果

